平和学習について

南中学校三年　西山　伊織

私は先日、長久手市中学生平和学習に参加させていただきました。当選した当初は広島旅行に行けるといった安易な楽しい気持ちだったのが本心です。２日間広島へ行って体感したことによって先に述べた様な旅行気分は無くなりました。広島、長崎に原爆が落とされ、多数の人々が亡くなった事は、教科書等で知識はありましたが、それがどれ程の物なのか、その原子力爆弾という恐ろしさという実際に被災した方の講話を聴き、何とも言えない複雑な気持ちになりました。原爆ドーム前で大勢の人々が記念写真をとっていて、私達も写真をとっていただきました。しかし70数年前にさかのぼると、この上空で人類初の原子力爆弾が投下され、多くの尊い人命が一瞬にして奪われたという事実があります。ドーム前の近くの川では被爆された方々が熱さ

20 × 20

から水を求め幾重にも重なる様に川の中で息絶えていたのです。今は穏やかに流れてましたが、70数年前は地獄絵図の風景だったとの事です。これは平和学習から帰ってから聞いたことですが、戦後、何年、何十年経っても原爆被災者は放射能を浴びた事によって何とも言えない差別にあったそうです。広島出身だと分かると「あの家族はピカの家族、子供だ」と「近くに行くと放射能がうつる」等とデマを流されたり、息子、娘、孫が被爆者の親族だと分かるものなら結婚も破談にされると言った事があり、その事にならぬ様、両親や、祖父母達が、被爆症認定を貰わなかったり、遅らせた事があったと聞き何とも言えない悲しさになりました。私の住む長久手市は非核平和都市宣言と掲げていますが、この宣言が、地方から国に、そして全世界で採択され地球上から紛争が、核兵器が無くなる事を切に願うばかりです。今の私にはまだ何もする事が出来ませんが核のない平和な世界とな

20 × 20

る様祈りたいと思います。

今回とても貴重な体験をさせていただきました。この体験学習が今後何年も続き、少しでも多くの人に平和と戦争、核の恐ろしさを理解してもらえばと思います。

20 × 20